



29 藤井浩祐《古代婦人》 一点

大正十二年（一九二三）ブロンズ、鑄造
二三・〇×三四・〇×六五・五

右手に花を持ち、左手で肩に掛けた長い薄布を持つ、古代の女性を表した作品。両肘を挙げ、顔を後ろに反らせたポーズで、身体に美しい曲線を作り出している。基台部分に「大正十二年十二月藤井浩祐」と鑄造銘があり、同年の再興第十回日本美術院展覧会に出品された『静かな水』に類似している。作者の藤井浩祐（一八八二〜一九五六）は生涯を通じて女性の裸体美の表現を追求したが、この頃、古代の女性像を主題として取り組んでいたことが当館所蔵の《夕月》（大正十三年）からも知られる。大正十三年（一九二四）の皇太子（昭和天皇）御結婚に際して、二條厚基、鷹司信輔より献上された品である。

藤井は明治十五年に神田錦町に生まれた。父の祐敬は東京彫工会の理事を務めた唐木彫刻師で九条家の御用も受けていたという。明治四十年に東京美術学校を卒業、同年の文展第一回展から出品を続け高い評価を得た。大正五年に再興日本美術院の同人となったが、昭和十一年には再び官展に復帰し、帝国美術院、新文展、戦後の日展を通じて、彫刻界の指導的役割を果たした。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

1920s-30s モダン・エイジ — 光と影の造型美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 70

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年九月十二日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan